



水産情報速報版

H17. 8.19 1156

静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行 = 指導部 漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. 県密漁防止対策協議会開催される

県密漁防止対策協議会では8月18日、委員・幹事会を開催し、平成16年度の事業報告及び収支決算並びに平成17年度事業計画及び収支予算について審議し夫々承認されました。

本年度事業では、昨年に引き続き南伊豆町漁協において正規に漁獲されたアワビに「エコラベル」を取り付け、密漁されたアワビを判別するとともに漁協から消費者を結ぶトレーサビリティ(生産履歴情報)システムのモデル化を図り、南伊豆産アワビのブランドが確立できるよう事業を展開します。

また、監視活動に従事する漁協役員等を対象とした「密漁防止研修会」を開催するほか、密漁防止に係る立看板の設置や資材作成を通じて、広く一般市民に「密漁は犯罪である」という認識を広める、密漁防止・撲滅啓発活動も実施します。

2. 平成17年8～12月の漁海況予測を発表

- 県水産試験場 -

県水産試験場では、このほど平成17年8～12月の漁海況予測を発表しました。

海況：黒潮/8月～10月はC型流路で推移しますが、11月以降はD型流路を経てN型流路へ移行します。沿岸水温/C型流路時は概ね冷水域に入りますが、N型流路時には黒潮の離接岸変動に伴って暖水が一時的に沿岸域へ波及することがあります。

マサバおよびゴマサバ：来遊量/ゴマサバは1歳魚を主体に2・3歳魚が混じり、8月以降、0歳魚も漁獲対象となり、前年並みの漁が期待されますが、マサバは期待できません。漁期・漁場/ゴマサバは、三宅島を中心とする伊豆諸島海域に漁場が形成されます。魚体/ゴマサバの体長は、26～31㎝(1歳魚)主体に34～37㎝(3歳魚)と31～34㎝(2歳魚)が混じります。

< 予測の説明 > ゴマサバ/1歳魚の加入量は、卓越年級群の96年級群に次ぐ水準であり、残存資源量も相当多いと推定されており、1歳魚主体に前年並みの漁が伊豆諸島海域で期待されます。また、0歳魚も漁獲対象に加わります。マサバ/1歳魚の資源量は、近年では高く92年級群に準ずる水準と判断され、前年を上回ると考えられます。10月以降、三陸～常磐海域で1、3歳魚を対象にまき網漁場が形成されるが、伊豆諸島近海での漁場形成は期待できません。

マイワシ：0歳魚の加入量水準は前年より高いと予測があるものの、依然低水準で加入量水準の大きな回復はないとみられています。近年は夏漁で1歳魚を中心とした比較的まとまった漁獲がみられましたが、今年の夏漁は低水準で推移しており、1歳魚もほとんどみられていません。

カタクチワシ：0歳魚は全国的にシラス漁が好調だったことから、04年級群ほど低水準ではないと考えられます。1歳魚は駿河湾では5月以降水揚げされていることから、前年並みが期待できます。シラスについては、黒潮大蛇行が解消され、前年を上回ると予

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

測されます。また、11月以降に黒潮流路の変動が予測されており、一時的な暖流波及による好漁の可能性がります。

3. 全国漁業協同組合学校で「経営戦略コース」を開設

全国漁業協同組合学校は、JFグループの経営層・中間層を対象に、JFの経営に必要な専門知識と経営戦略の習得をする「経営戦略コース」を開設しました。

このコースでは、JF合併・組織編成に取り組むJFリーダーに求められるマネジメント能力の向上を目指し、今日的課題については、迅速に最適解を導きだすノウハウを学びます。

本コースでは、経営知識を活用した集合研修・ケースメソッド(事例学習)を取り入れ、全国各地から集まったJFリーダーと意見を交わし、戦略的意思決定能力を養成します。また、教材は一般企業のほか、JF独自のケースを取り入れ実践的に学習できる内容となっています。

プログラム・日程：通信学習(準備講座) = 基礎知識レベルに合わせ「財務会計」又は「経営戦略」ベーシック1科目を受講<10月1日～11月末> 通信学習(eラーニング) = 経営知識の習得 「経営戦略」「マーケティング戦略」「財務・会計」アドバンス3科目を受講<12月1日～平成18年7月末> 集合研修 = 課題形成力の養成(通信学習復習・一般企業ケースメソッド・JFケースメソッドなど)<平成18年8月18～26日> 研修費：38万円(準備講座・ベーシック1科目、eラーニング・アドバンス3科目、研修費、食費等)

募集人員：20名(連合会・JFの常勤役員、参事、部長、意欲のある課長層(水協監査士レベル及び同等者)) 締切日：平成17年9月20日(火)

問合せ先：全国漁業協同組合学校 TEL：04-7144-8125

4. サケ科魚類のミズカビ防止効果を確認

県水産試験場富士養鱒場は、神戸製鋼所と共同で、同社開発の抗菌めっき技術「KENI FINE(ケニファイン)」がサケ科類の受精卵の歩留まりを低下させるミズカビ寄生を抑制する効果を確認しました。

ミズカビは受精卵に寄生してふ化率を低下させるため、1950年頃からミズカビ防止に染料の一種マラカイトグリーン(MG)浴を行っていましたが、2003年7月の薬事法改正でMG使用が今年7月末で完全に禁止になり、早急に代替品の開発が求められていました。

富士養鱒場におけるニジマス受精卵のミズカビ抑制試験の結果、ステンレス鋼のミズカビ寄生率が53.3%だったのに対し、ケニファイン加工したステンレス鋼では26.3%と27%も低く、ケニファインが受精卵へ悪影響を及ぼさないことも確認しました。

今後は作製したケニファイン加工の卵収容器を使い、数万粒単位の試験を実施し、ニジマス以外のシロサケの種苗放流用卵やアユの人工種苗卵などにも応用できる、消費者の安全・安心にも対応できる技術になると期待され、来年度内には実用化を目指します。

5. 諸会議日程(8月23日(火)～9月5日(月))

- 既報分省略 -

8月26日(金) 県養鰻協会 = 懇談会 (中遠養鰻)

8月30日(火) 県漁業信用基金協会 = 保証審査委員会 (県水産会館)

〃 県遊漁船業協会 = 神子元島沖部会 (下田市漁協)

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう